

### 保護者の皆様へ

担任による道德の授業で  
「差別と偏見」について考えました



### 感染症から生まれる差別・偏見をどうなく していくかを考える授業をおこないました

新型コロナウイルス感染症の変異株の感染拡大し、さらに影響が長引く中、学校を含めた日常の生活にも、多くの制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いています。今年度は水

泳の授業も再開しますが、どうやったら感染対策ができるのか、試行錯誤しています。今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となって広がっているのも事実です。

学校では、今後も感染予防を続けていきますが、感染力の強い変異型の新型コロナウイルスが拡がり、誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

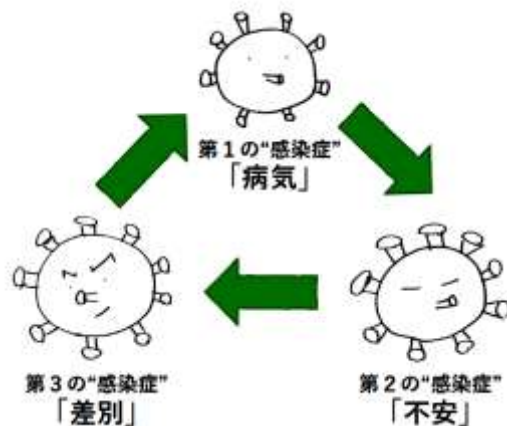
そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす3つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症対策と感染症に関する差別・偏見について考える授業を実施しました。



### 3つの“感染症”とは？

- ① “病気”そのものの感染症
- ② “不安”という気持ちの感染症
- ③ “差別・偏見”という意識の感染症

この3つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。



Check

### 負のスパイラルを断ち切るためにできること

- ① ウイルスの感染をひろげないために…  
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、3密を避け、自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。
- ② 不安にふりまわされないために…  
情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げない
- ③ 差別や偏見をひろげないために…  
言い出しにくい空気をつくらないこと

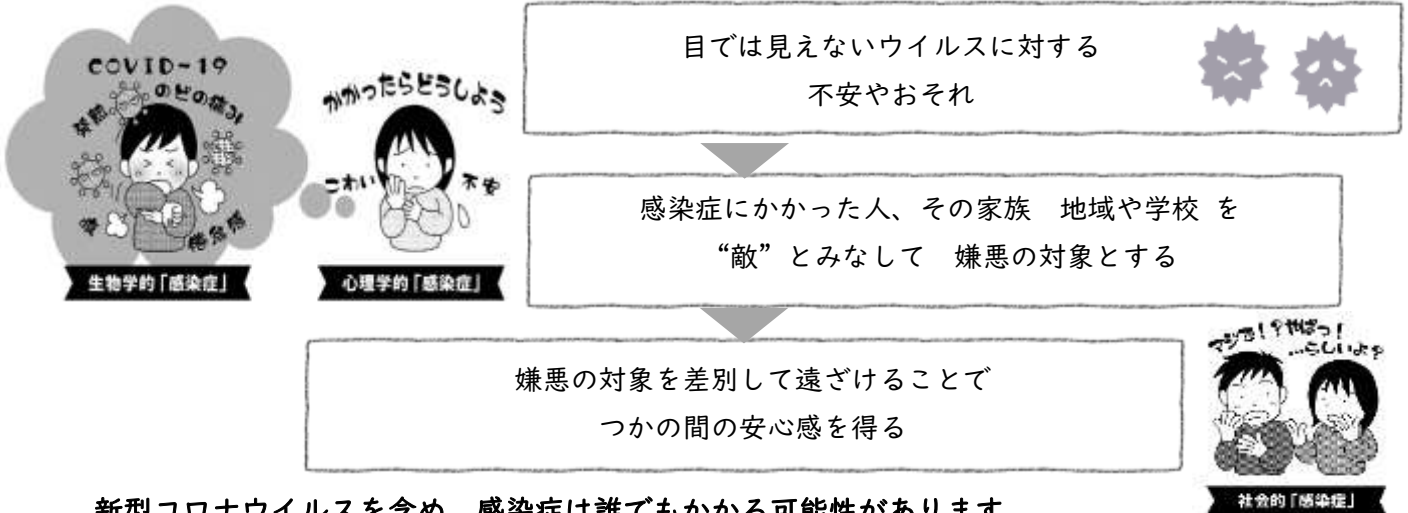




## 感染症から差別や偏見が生まれる理由



人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。



新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。たたくべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗り越えましょう。



### 授業を受けた生徒の声



#### 差別・偏見をなくすために、自分には何ができると思いますか？ 今日授業で何を思いましたか？

- ・ウイルスには物理的な症状の他に、精神的な症状が起こり、周りの人をパニックにするという事態がおこるということを始めて知りました。これからもし友達がコロナにかかってしまったら、どのような対応をすればいいのかわかりたいです。
- ・今日の授業で人と人は言っていないことややってはいけないことをやらないようにしているけれど、無意識にそのようなことをやることがあることがわかった。また、自分がかかってしまった立場になったらということを考えて、発言や行動をした方がいいとわかった。
- ・私はコロナの差別をテレビでみても、なんでそんなことをするんだろう、と思ったけれど、今回の授業で差別をしている人も不安だけで、受けている人も私が思っている以上に苦しんでいるということが分かった。これからテレビでこういったニュースを見たらいつもより重く深く考えたい。
- ・自分は差別されたいやなのになにに人にするのはおかしいから、もし、差別していたらちょっと立ち止まって考えてみたりする。また、もしそのようなことをしている人がいたら、「よくないよ」など声をかける。



### ご家庭でもご協力をお願いします。



新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の授業をはじめ継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしくお願いたします。